

誰にもやさしい公共交通をめざして



JR飯田線



市民バス循環線



乗合タクシー 平岡線

公共交通整備の背景及び継続的な取り組みの必要性

公共交通の現状と南信州地域の取り組み

起伏に富んだ地形的特徴を持つ南信州地域では、移動手段は専ら自家用車に依存しています。また、高齢者の運転免許証保有率の増加や少子化による高校生の減少等の要因も加わり、利用者の減少による公共交通の弱体化が深刻な問題となっています。

こうした中、平成19年12月にはこれまで当地域の公共交通網の多くを担ってきた民間事業者が路線バス運行からの撤退を表明しました。それを受け平成20年3月に、圏域住民（特に自家用車を運転できない高齢者や高校生を中心とする学生等）の生活確保のために、『南信州地域交通問題協議会』を設立し、当地域における公共交通の長期的計画として、公共交通整備に関する基本的な考え方や提供するサービスの水準を盛り込んだ『南信州地域公共交通総合連携計画（H21年4月～H26年3月）（以下「第1次連携計画」という。）』を策定し、圏域内の公共交通の発展と利用促進に取り組んできました。

第1次連携計画の評価

高校生の通学に配慮したバスの運行や運賃改定等の取り組みにより、計画策定当初であるH21年度に比べH24年度では69,598人（115.9%）増え、利用者の増加に繋がりました。また、交通不便者に対応した公共交通の利便性向上では、飯田市では乗合タクシーを運行することで、1.5km²の公共交通空白地域を解消するなどの成果をあげました。

課題としては、市町村の啓発活動の差により公共交通の認知度にも差が生じていることや、交通空白地域における住民ニーズの把握の推進を図ること、効率的・効果的な接続を推進していくこと、運転免許証を保有する高齢者への利用転換推進などが挙げられ、第1次連携計画の目標達成までには至りませんでした。

このような様々な課題解決に取り組むために、第2次連携計画（H26年4月～H31年3月）を圏域全体の継続計画として策定し、市町村全体が連携・協力して路線運行を行い、住民ひとりひとりが公共交通を移動手段の選択肢のひとつと考え、日頃から利用できる公共交通体系づくりを推進していく必要があります。

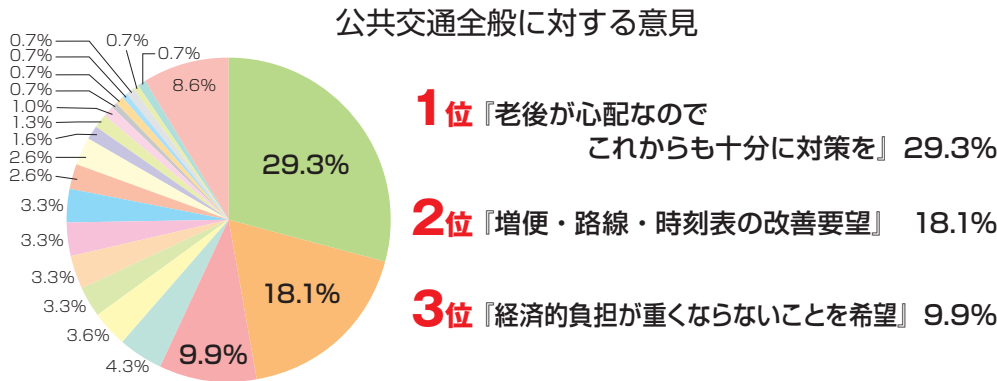
リニア中央新幹線開業に向けて

来るべきリニア中央新幹線開業に向け、観光をはじめとする交流人口の拡大に対応した新たな公共交通体系について研究を図り、南信州地域全体の更なる発展につなげていく必要があります。

公共交通に対する圏域住民の声

第2次連携計画策定にあたって、圏域にお住まいの65歳以上の高齢者を対象に公共交通に対するアンケート調査を行いました。また、高校生にはグループインタビューを実施し、公共交通の利用に対する実態調査を行いました。

高齢者アンケート結果より抜粋



高齢者の意見

今は車があるから
必要ないけど、
将来のために
公共交通は必要

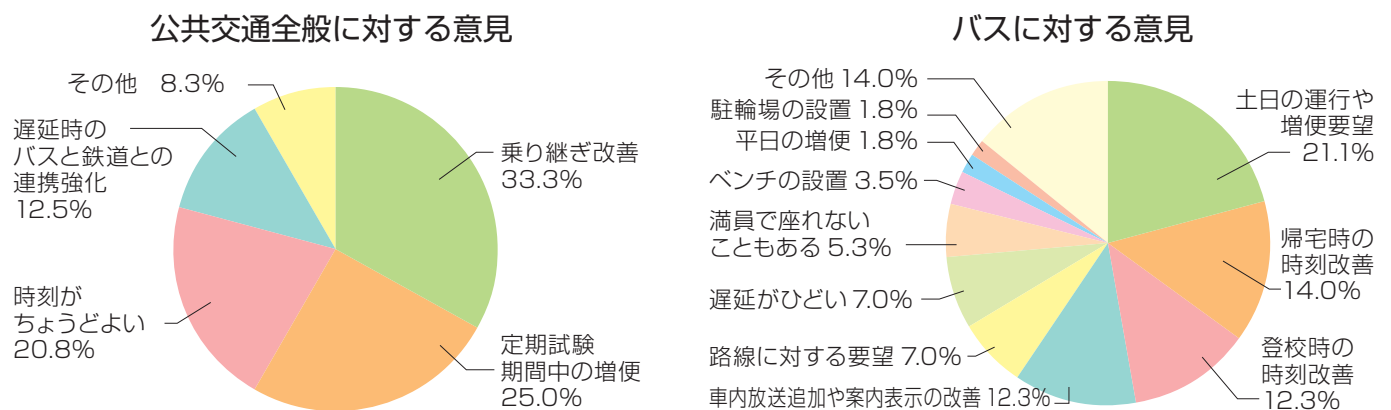
アンケート結果から

アンケートの結果、多くの高齢者が将来自家用車を運転できなくなった時の交通手段を心配している現状がわかりました。また、自家用車を運転できない高齢者は、家族や他人に頼って移動せざるを得ない状況にあり、迷惑をかけないように外出をなるべく減らすなどの行動をとっていることがわかりました。

日常生活で自家用車による移動が中心である高齢者にとっては、バスや電車等の公共交通の利用は『病気やけがの時、または将来運転できなくなった時の移動手段』と思われるがちですが、実はそれから利用しては遅いのです。日頃から切符の購入や乗り方等に慣れておくことで、いざという時にスムーズに利用できます。

高齢者が健康で生き生きとした地域づくりを推進する必要があります

高校生グループインタビュー結果より抜粋



高校生の意見

車内掲示や土日の運行などもっと利用しやすくしてほしい

高校生は登下校時の電車の車両増や、バスの運行時刻に関する改善要望、部活動や外出のための土日運行の拡充などの要望があり、利便性改善に期待していることがわかりました。

第2次総合連携計画

これから目指すべき公共交通の姿（基本方針）

第1次連携計画の評価でも述べたとおり、第1次連携計画では、市町村の啓発活動の差により公共交通の認知度にも差が生じていることや、交通空白地域における住民ニーズの把握の推進を図ること、効率的・効果的な接続を推進していくこと、運転免許証を保有する高齢者への利用転換推進などの課題が残りました。

このような様々な課題解決に取り組むために、第2次連携計画は第1次連携計画の基本方針を引き継ぐとともに、来るべきリニア中央新幹線開業に向けた新たな公共交通体系について研究を図り、南信州地域全体の更なる発展につなげ、誰もがわかりやすく使いやすい、やさしい公共交通の整備を推進していきます。

基本方針を推進するための目標と事業

目 標		事 業 の 概 要
目標1	南信州公共交通システムのブランド化	・ 地域全体の公共交通体系である「南信州公共交通システム」を広く周知し、自家用車主体の生活様式から、公共交通を交通手段のひとつの選択肢と意識付けするための利用促進・転換事業の推進。 ・ 広報誌の発行やシステムの名前の公募（ブランディング）、バス停留所の統一化、デザインの募集、路線別カラー・番号の表示など。
目標2	交通不便者に対応した公共交通の利便性向上	・ ホームページによる当地域の公共交通情報の発信や、利用者にわかりやすい路線図、時刻表を作成することで、公共交通の利便性向上につなげる。
目標3	基幹路線に対する准基幹路線及び支線の効率的・効果的な接続	・ 公共交通をより利用しやすいものとするため、当地域における公共交通の連携や接続改善を図る。
目標4	利用者の拡大	・ 様々な利用促進・利用転換事業を実施していくことにより、利用者拡大を図る。 ・ エコ通勤、ノーマイカーデーの推進。 ・ 統一されたデザインの案内標識や路線図の整備を行い、円滑な乗り継ぎや乗り換えを確保する検討などを行う。
目標5	リニア中央新幹線開業を見据えた新たな公共交通網の基盤づくり	・ リニア駅と既存公共交通との効果的な接続及び既存交通の新たな活用方法等の研究、周辺圏域も含めたより広域的な交通ネットワークづくりのための情報収集を行う。

これらの目標に取り組むことにより、地域全体の公共交通を『南信州公共交通システム』として確立します。また、事業の進捗状況を1年ごとに評価・検証（PDCAサイクルの活用）を行うことで、南信州公共交通システムの維持・改善を図り、住民ニーズに合った公共交通を提供していきます。

誰にもやさしく利用しやすい公共交通



豊丘村民バス(厚生病院)



市内循環線(市立病院)



南部公共バス(飯田駅前)

南信州公共交通システムとは

南信州公共交通システム

● 体系化された公共交通網

圏域内の公共交通路線を基幹路線・准基幹路線・支線に整理し、効率的効果的な経路を設定する。

● 運行上の統一ルール

シームレスダイヤ（乗り継ぎの負担を感じさせない時刻設定）や、運賃設定などの利便性向上に関する統一ルールを設定する。

● 利用促進の取り組み

圏域住民に対し公共交通の利用を推進し、公共交通に対する理解、維持に対する協力行動を促す。

主体ごとの取り組み内容

主 体	役 割 内 容
南信州地域交通問題協議会	<ul style="list-style-type: none"> ○南信州総合連携計画の策定・進行管理 ○圏域全体のコーディネート ○圏域全体を対象とした利用促進・利用転換事業の展開 など
市町村 地域公共交通協議会	<ul style="list-style-type: none"> ○第2次南信州総合連携計画に基づく基幹・准基幹・支線の運行及び協議 ○南信州地域交通問題協議会との相互連携 ○リニア中央新幹線開業を見据えた新たな公共交通網の基盤づくり など
飯田市(定住自立圏の中心市)	<ul style="list-style-type: none"> ○圏域全体の公共交通ネットワーク構築の先導的推進と効果的かつ効率的な運行に向けた調整 ○南信州地域交通問題協議会との相互連携 ○リニア中央新幹線開業を見据えた新たな公共交通網の基盤づくりの先導的役割 など
交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> ○安心安全な運行 ○第2次南信州総合連携計画に基づく基幹・准基幹・支線の運行に対する助言 ○ダイヤ改正に伴うシームレスダイヤの具体的設定 など
住民〔自治会・学校・ 商工会議所など〕	<ul style="list-style-type: none"> ○運行路線に対する意見の集約 ○利用促進・利用転換に関する協働活動 ○南信州地域交通問題協議会及び市町村交通公共協議会、市町村への協力 など

これらの主体が連携・協働して事業を実施することで、圏域住民の生活の足である公共交通の維持・発展を図ります。



● お問い合わせ

南信州地域交通問題協議会 事務局
 飯田市追手町2-678 飯田合同庁舎5階
 TEL. 0265-53-7100
 FAX. 0265-53-7155
 メールアドレス m-koiki2@mis.janis.or.jp